



天 界 新 知 識

露國カザン天文臺の改組織

露國 Kazan 市に1899年以來建設されてある Engelhardt 天文臺は、元々 Engelhardt 男爵が個人用として1880年獨國 Dresden 市に建てられたもので、30cm の Grubb 製赤道儀等により彗星や二重星等の觀測をしてゐたものであるが、1897年に至つて同男爵は露國 Kazan 大學に一切を寄附した天文臺である。それから1920年頃まで其の狀態を維持し、遂に同大學天文臺と併合されたものであつたが、昨1932年4月、其の組織を新らしくして、純學術研究府となり、D. J. Martinoff 教授(太陽と變星)を臺長とし、A. A. Jakowkin (月の秤動), J. A. Djukow (子午環), I. W. Belkovitch (月の秤動, 緯度), N. A. Lass-Tchudovitcheva (緯度, 小遊星)等が臺員として活動することゝなつた。

昨1932年中の三澤氏の太陽黒點觀測日數表

月	觀測日數	無黒點日數	古畑氏の 觀測日數	五味氏の 觀測日數	平均相對數
1	27	8	2		17.6
2	26	9	5		13.4
3	29	7	1		17.4
4	26	10	2		12.3
5	29	6	4		22.4
6	26	1	2		28.8
7	25	10	6	1	12.8
8	29	14	9		9.9
9	23	13	1		5.7
10	30	8	8		12.2
11	24	8	2		11.8
12	23	5	1		12.5
計	317	99	43	1	

羅馬法王新天文臺

近々伊太利カステル・ガンドルフォに新設をみる羅馬法王新天文臺に裝置される諸天文器械納入に關する羅馬法王廳と獨乙エーナ市カール・ツァイス本社との間に締結された契約の内容發表が此程許可されるに到つたが、最近の報道に依ると現在の羅馬法王ピウス十一世は科學者として常に科學獎勵の爲め不斷の努力を拂つて居られる人で天文學にも多大の興味を持って居られる事はピウス九世以來第一人者である。

昨年12月19日20日發行 „Osservatore Romano” 第295號に掲載された羅馬法王理科大學 (Ponteficia Accademia delle Scienze) 新學年始業式に關する記事に依ると始業式には法王も親しく列席され、同式場に於いて現在羅馬法王天文臺 (Specola Vaticana) の臺長をして居るスタイン博士は、右天文臺が近々ヴァチカン市からカステル・ガンドルフォに移轉される事になり、同地に大規模の天文臺が新設される旨發表して居る。現天文臺長スタイン博士は數年前高齢をもつて物故した世界的天文學者ハーゲン教父の後任者として現職に就いた人である。

此カステルガンドルフォは元來代々法王の夏季宮邸だつたものでラテラン條約に依つて伊太利政府から法王へ返還されたものである。此をスツカリ改築して新天文臺を建て様と云ふのである。此歴史的にも意義ある建設と關聯して最も斬新な設備を完備した此天文臺は法王の指圖に依つて法王が夏季カステルガンドルフォ滞在中法王の居間から直接天文臺に行けるやう設計されて居る。法王廳とカール・ツァイス本社との間には既に昨年11月11日に器械納入契約が締結された其内容は、

ドーム (直徑8 $\frac{1}{2}$ m)	2臺
アストログラフ付き反射望遠鏡	1臺
坐標測定機	1臺
スペクトログラフ	1臺
對物プリズム	數個
プリンク・コムパラトリア	1臺
アストロ楔形フォトメータ	1臺

の諸器械の納入と更に同天文臺既に所有の 400 m/m 對物レンズに對する屈折鏡の組立等である。

右ドームには天文臺設計上最新式轉換觀測床が1臺づゝ附いて居て、觀測者は望遠鏡をどの方向に向けても樂に觀測が出来、又觀測者の居る所から電氣スイッチを押す木でモータ掛仕で此床をどうにでも動かせる様になつて居る。此觀測床に依つて從來不便乍ら使用されて居た觀測用梯子は不要となつた譯である。

右契約に依るとカール・ツァイス本社へ2ヶ年内に右諸器械を納入する事になつて居る。孰れ完成の曉は羅馬法王は伊太利にある最新式設備をもつた天文臺所有者の1人となる譯で應今から會心の笑を洩らして居る事であらう。尙天文臺移轉の理由はローマ市は大氣及他の關係上天體觀測及研究に追々不適當となつて來たからである。

シレ！ラ師逝く

西國 Ebro 河畔 Tortosa 市にある Ebro 天文臺の創立者兼第一代の臺長 Ricardo Cirera 師は去1932年8月3日に Barcelona で死去された。師は1864年7月16日 Os-de-Balaguer (Lerida) に生れ、1880年に天主教イエスイタ教團に入つた。1888年 Faura 師父と共に Philippine の Manila 天文臺に到着し、(まもなく、師父は病氣で歸國したため)24歳の若年を以つて天文臺を指揮した。其の後、歸國して、東奔西走の結果、1904年、前記 Tortosa 市郊外に Ebro 天文臺を創設し、太陽と、地磁氣と、地中電氣と、地震と、氣象との、同時觀測を繼續遂行するプログラムを始めた。師は1919年に退陰し、Luis Rodés 師が其の後繼者として、現任してゐる。

日 食 コ ロ ナ の 擴 が り 測 定

去る1932年8月31日米國東部の皆既日食に、白國の Felix de Roy 氏が簡單な十字棒を用ゐて眼視的にコロナの擴がりを測つた珍しい報告がある。結果は

第 1 棒	擴がり 2°.9	位置角 90°—270°	即ち 東 西
第 2 棒	3.1	“ “	“
第 3 棒	2.0	0—180	南 北
第 4 棒	1.0	290	西北の流線
第 5 棒	1.1	240	西南 “ “
第 6 棒	2.3	60	南北の大流線

これで見ると太陽の直徑の4倍(即ち2°)以上にも達するものがあることが明かである。(今まで此等の事は主に寫眞觀測から得られたのみであつた。) [H.B. 891]

黒點面積、太陽周縁動搖、遠望の觀測

◎太陽活動指數を Wolf 相對數にのみ頼つてゐるのは不安心であるので黒點面積の觀測を行つてみた。學的價值は少いかも知れぬが一種の試みとして御送りする。今後とも繼續するつ積りである。機械は58耗、倍率は44倍を使用した。徑緯臺式である故可成りの誤差は免がれない處で、又、修正値は可成り大膽な近似値をダイアグラムによつて換算した故、太陽周縁近くに黒點がある時は相當の誤差の伴ふのを覺悟してゐる。

◎表中黒點面積實測値は太陽撮影面の $1/75^\circ\pi$ を單位としたる値、黒點面積欄は實測値に經緯度の修正を加へ、太陽全面積の 10^{-6} を單位とした値を示す。

◎白紋面積實測値は太陽撮影面の $1/75^\circ\pi$ を單位としたる値、數字の後の()の中の VB, B, V, F の文字は夫々白紋の光輝を示すものである。

◎太陽周縁の動搖は撮影法により、周縁の動搖を太陽直徑の 10^{-2} を單位として觀測してある。

◎遠望は、A, B, C, D, E, F の六階級に分け、Aを最良とし、放送局のアンテナの鐵骨の見え方、其他四圍に適當な地物を撰び觀測してゐる。

尙、御氣附の點は御教示を賜らんことを。

◎月初めの黒點の次第に減衰の兆は Wolf 相對數では分らないが面積ではよくそれ
 が分る様に思ふ。

Date	Time	N 半 球	S 半 球	Gr N	Gr S	Facula E W	Seeing	Cloud	確 度	黒點面積 實 測 値	黒點 面積	白紋	動搖	遠望	注 意
1	10 ^m 20h	—	⁽⁸⁹⁾ 6	1	6	4	0	C	—	7.6	182.4	45.0	0.8	B	} through cloud Rain
2	9 50	—	10	1	10	1	0	rC	—	5.5	90.5	27.5	1.2	D	
3	9 20	—	9	1	9	1	0	VC	—	4.2	67.2	12.0	0.7	C	
4	8 30	—	8	1	8	1	0	VC	—	3.0	45.0	9.0	0.3	B	
5	9 0	—	C7d	1	7	0	0	VC	—	1.0	14.2	0	0.5	B	
6	9 20	⁽⁹⁰⁾	—	0	0	—	—	Bad	8	0.0	0.0	—	—	—	
7	9 30	1c	—	1	1	1	0	rC	—	5.0	168.4	—	0.4	D	
8	9 40	1	—	1	1	3	0	VC	—	7.5	186.7	7.0	0.3	—	
9	10 0	1	—	1	1	2	0	Bad	—	8.0	137.3	—	0.3	F	
10	9 30	1	—	1	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	
11	—	1	—	1	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	
12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	} Rain
13	10 0	C1	—	1	1	0	0	—	1	11.0	155.6	0.0	—	—	
14	11 0	2	—	1	2	0	0	rC	—	11.0	165.0	0.0	0.6	D	
15	14 0	3	—	1	3	0	0	VC	—	9.5	162.9	—	0.4	C	
16	9 40	4	—	1	4	0	0	rC	—	8.0	137.3	—	0.5	D	
17	9 30	3	—	1	3	0	2	C	—	6.3	132.3	9.4(F)	0.6	C	
18	8 50	6	—	2	6	0	1	VC	—	5.8	194.3	11.6	0.4	B	
19	10 0	4w	—	1	4	0	1	C	—	1+0.3+1.2	111.5	7.5(F)	0.2	C	
20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
21	9 20	—	—	0	0	0	1	Bad	2	0.0	0.0	—	0.3	E	} Cloud
22	10 0	—	—	0	0	0	0	C	3	0.0	0.0	0.0	0.3	C	
23	9 50	—	—	0	0	0	0	C	2	0.0	0.0	0.0	0.4	B	
24	10 0	—	—	0	0	0	0	VC	0	0.0	0.0	0.0	0.23	B	
25	10 0	—	—	0	0	0	0	VC	2(W)	0.0	0.0	0.0	0.2	C	
26	9 0	—	—	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
27	—	⁽⁹¹⁾	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
28	11 30	W3a	—	1	3	0	0	C	7	1.8	28.8	—	0.5	B	
29	9 20	3	—	1	3	0	0	VC	0	1.1	18.7	—	0.32	A	
30	9 0	2	—	1	2	0	1	C	0	1.0	12.0	5.0	0.4	B	
31	9 0	3w	—	1	3	0	1	Bad	8	2	0.6+0.1+0.8	20.9	9.0	0.32	D

(下 保)